



五三平九号
書

13
526
15



八 18
526
1



新選沙石集序

新選沙石集序

無^ハ任^ギ和^シ尚^クノ沙^サ石^シ集^シ世^ヨニ行^クハレシヨリ以^テ來^ル戸^ノ
 戸^ノニ傳^ハヘ來^リ、ニ涌^リシテ興^キ起^ル成^ル蹊^クシ。三^ニ審^シ歸^ル依^ル
 スル者^モ鮮^クシトセズ。淵^クツベシ。斷^リ述^スノ外^ニ到^リ勸^ム善^ク
 ノ策^ヲ鞭^ニナリト。モ^ト隨^フ其^ノ餘^リ。三^ニ朝^ノノ素^ク蹟^ヲ。
 見^ルニ隨^ヒヒ。漸^クニ隨^ヒヒテ。アジキナキ。スサニ
 ニ。汲^リ集^メ。顰^ニ倣^テ。新^ク沙^石集^ト名^ク。沙^石ニ
 タクラブレバ其^ノ事^ヲ不^レ備^フタリト怪^シトモ。所^レ謂^ルル。

新選沙石集序

一

10
526
1-5

526
1-5

故ヲ温子テ。新ヲ知ルノ家ニ。取ルノモ。唯恐ラ
クハ。云。誘。淺。酒。ニ。レ。テ。事。実。美。志。多。カ。ラ。ン。コ。ト
ヲ。然。レ。モ。引。送。共。ニ。佛。乘。ノ。縁。ト。ナ。リ。歌。舞。モ。亦
且。法。音。ト。お。ル。ニ。是。レ。ル。ト。キ。ハ。乃。見。ル。人。沙。中
ニ。金。ヲ。求。テ。一。夕。ヒ。モ。隨。喜。感。發。セ。バ。此。書。ノ。流
行。古。集。ニ。並。テ。勸。化。引。送。ノ。一。助。也。ン。バ。ア。ラ。ズ
ト。云。フ。コ。ト。尔。リ

桑門虛舟子書之

新選沙石集第一目錄

何。殊。池。如。來。因。位。ノ。事
激。盡。法。苑。藏。法。一。ノ。引。送。の。ち。成。の。か。ら。る
玄。寶。清。都。ら。ん。せ。い。ぶ。ぶ。い。ま。の。ま。の
唐。の。師。お。め。い。ど。ら。り。の。り。の。事
小。兜。念。佛。れ。を。と。く。成。は。り。の。事
西。信。禪。師。の。事
は。新。選。王。國。の。珠。を。ね。む。佛。の。ま。の。事
尾。列。成。清。子。息。ら。ん。せ。い。ま。の。ま。の。事

新選沙石集 卷一

海濱地如來園位の事

楳田ひらけい安樂せといと母提南園とせし時一

人の精輪聖王切りまじりてその名とて御念王と

ごうとまひとりの長下寶海梵士とのありてあり

うしとてはるるうし通をまじり貞信忠のみちし

そしつに宮心進退規矩よりありありとてのぞし

まきまきとひくるとまきまきとて天祥よりの

く一人男子とてはるるうしとてはるるうしとて春

の花よりしあかり心操秋の月よりしあかりしあ

かりしあかりしあかりしあかりしあかりしあ

かりしあかりしあかりしあかりしあかりしあ

おれともしひのり又りまじりあてし。修くの齊代
 わらへしうの量名と實慈と名付るは子孫
 成人より一ちてせむの持實と知有るの
 常といひて佛なるいんか父母繼悲い
 云我ホ年一考らり七實の琳卿とゆつり一良の
 棟梁とす我ららるのまじり。神念よりせり
 彌作慈相の足とも成今よりまじり
 そのくちけしとてゆらるるにけしとて使求
 菩提の心流しとてまじりまじりまじりまじり
 けり身しをり現身一成道とりまじりまじり
 とありたれとて實慈佛とありつて時一實海林上

我子のやとけしありまじりまじりまじり
 實慈はりみりまじりまじりまじりまじり
 如來父の大成れまじりまじりまじり
 とて結ぶ大成れまじりまじりまじり
 佛なる一佛。神念よりみりまじりまじり
 りりりまじりまじり大成れまじりまじり
 りりり一幸し結ぶ一。千車蹄とありまじり
 りりり一結ぶ一。雷電地一うけりまじり
 ざり結ぶ一。大成れまじりまじりまじり
 一徳受なり。大成れまじりまじりまじり
 舌の莊嚴の玉冠と捨て。劣袍魯國の身とあり

ありし法名と法名にそそりける。首尾の三
 櫻九株た右の千官百寮とのく波とゆさみみ
 神くすしふりいそんや経歴とそその萬とそその
 妃宗女の朱房玉様ののり一は綿綿と截て衣一
 とそその物陰寵は紫殿實園のり一とそ
 かりそその及びそそびくを樹下石上小塔たん
 我んそその及びそそびくを樹下石上小塔たん
 思惟一経ひて二福具足一三母とそそそそ
 孫池の三字と葉は一極系津刺といふ莊嚴殿
 妙の園一三歌の去とまうけて六八れ大観と成徳を
 づその中一會一とそそそ西方俾去と福がひは孫池

の三字とそそそ人の八十徳初八生花の字飛
 と一とそそののやとひとんとといふ種とそそそ
 つとそそののく女師村号も一とそそ一會は生と教
 えとそそのあやとそそそそそそそそそそそ
 けり一とそそそそそそそそそそそそそそそ

法画は花畑法一といふといふとつとつと

漢言法画といふ人あり。荆川玉泉寺の智者大師
 の見たりとそそのとそそそそそそそそそそそ
 一とそそそそそそそそそそそそそそそそ
 人の云悔朝一死とそそ相ありといふ。法画たそそ
 きて玉泉ちよのそそそそそそそそそそそそ

大師の云ふ下の神祇は穢雨とて一も定業よといふ
 つまづの精はころころとあらしのこも法苑の論を説く
 後のそのそ。法法は如とて定業と論を説く。あら
 いの法苑の論を説く。法苑の論を説く。あら
 つのひかり。あら。とて三七日の法苑を説く。あら
 つ。一心教禮人の香煙は。三七三対人のあつひの法苑よ
 六根懺悔の法苑よ。いさひの法苑よ。あら。あら。あら。
 七日は法苑よ。とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 大士は法苑よ。とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 法苑よ。とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。

むんぞしむら。ゆらのひ。とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 のつらとて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。
 とて法苑の法苑を説く。あら。あら。あら。

玄賓僧都より云々の事

和云 山階寺に玄賓僧都の云々論宗の願徳也空殿

中の三徳の金剛の突く煖境の果の唯識の教
 若れ洋の切られし以て奈良の津門に帰依
 わりて大僧都の殿のひげを天祥して和列三
 輪山の色ふらうらる草庵としこびて極々暮
 山に影とひらひて雲とくく骨さじく幽谷に
 水と柳でい月城あふさうと病とらそ及極武
 の天子の徳ひくまうめりてこれとめまし中
 懐とらへて松風の夢とやがら極師の心
 一とまき蘿月のちづらとまきとびうぶその
 初巻一 三輪川の清き流しとまきとびうぶその
 と文ふ又わあがさんと懐び子しとまきとびうぶその

名をばしてあしははてうせ給ふまきとびうぶその
 りしむまきとびうぶそのまきとびうぶそのまきとびうぶその
 けら僧越路とわ向けらるわらけらと大はり師と
 後守とまらひてまきとびうぶそのまきとびうぶその
 見れぬ老とら法師のまきとびうぶそのまきとびうぶその
 そらうとまらわらわられ柳の極とまきとびうぶその
 山に影とひらひて雲とくく骨さじく幽谷に
 水と柳でい月城あふさうと病とらそ及極武
 の天子の徳ひくまうめりてこれとめまし中
 懐とらへて松風の夢とやがら極師の心
 一とまき蘿月のちづらとまきとびうぶその
 初巻一 三輪川の清き流しとまきとびうぶその
 と文ふ又わあがさんと懐び子しとまきとびうぶその

わがらそよのがさへくよ...
かちくごのゆき...
しちひてちのぬ...
あんと...
さわりの法師...
一...
か...
只今うち食物...
もゆ...
さび...
やう...
か...
只今うち食物...
もゆ...
さび...
やう...

すよ...
町...
と...
彼...
秋...
唐の師...
漢...
業...
命...
そ...

行...
...

かりとあつてあんなゆきうおんいふ安養淨刹の力を
 しめ給ふよ黄金の橋をよの安救の天人遊戯し
 珠玉の散閣よの恒沙の聖光充滿せり寶樹林池
 の表裏よ照曜し香厚雲霧の遠近よひらり
 そふあつていひまぶつと紅よのつづくそつと
 花とちりまらるる木わらふおん池のまよあめりぐ
 さまのりくくの蓮花の美色りひらりまらりて
 まげ風のよ急め不思議の天第一寶の法文
 宣説も花らりちり化生とらんをまらり但し
 その中よ三つの花よ一人あつとあんなはまよこ
 ひもよまらりてまらりゆるそ人びやく化生と

子中よ一人のあつて花こつわりわとよあんなはま
 あつていつくはまらとわこれらんが父と兄と母
 とまらりて花そとつよおんよまらりてわ我母の
 花とまらりてあんなまらりてはらりて母の業
 障はまらりて佛はよゆをばあまらりて子の念は
 障界もあつてはらりてはらりてはらりてはらりて
 いろまらりてはらりてはらりてはらりてはらりて
 こそまらりてはらりてはらりてはらりてはらりて
 よまらりてはらりてはらりてはらりてはらりて
 ぐよまらりてはらりてはらりてはらりてはらりて
 あつてはらりてはらりてはらりてはらりてはらりて

らびちんぞちびくしとちりびまのー我らしく
 入るるあつちんはと二人とていふいふ
 のやびりな種いりりちん一故よー
 町えんはやうまうかんが僕人からいふ
 かりさうさうのべりちんあつちん
 夜すて還信ちりちんあつちんの特法のも也
 又送能待正法とわらふれいりては縁路如來の懸
 もとよびくしとちんあつちん一とてなる
 借ちつちんあつちんあつちんあつちん
 いかかていふとちんあつちんあつちんあつちん
 かお脱とちんあつちんあつちんあつちん



てつ城懸あつちんあつちんあつちんあつちん
 いふちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 借ちつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 とんぐとちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 ちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 くせ度遠道のものあつちんあつちんあつちんあつちん
 一とちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 竹新医王國の珠とぬとちんあつちんあつちんあつちん
 梵曰びりー佛とちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 王國の守衛とちんあつちんあつちんあつちんあつちん
 ありとちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

けし程よのしるしり賢あつて武勇も智あつりけむは
 近世は進で進退とあらあよしのよのらうか大船の後
 しのかりそ天下のまづらういさきういさういさういさう
 せんあひいぬよんかその後のいさういさういさういさう
 たりいいせい大船そのまゝ周の全實あり守せう
 せんあひいぬよんかそのまづらういさきういさういさう
 由とせぬりいせん家はんとか大まゆらういさういさう
 まひて今天下の父母とせまづらういさういさういさう
 うふい何のよそらああらせんかそのまづらういさういさう
 のうもいいけい大船く船と佛法のいさういさういさう
 ういさういさういさういさういさういさういさういさう

せよあらあひい船のいさういさういさういさういさう
 の人の目とそきくするあひいせんかそのまづらういさう
 るまわれあひいせんかそのまづらういさういさういさう
 一とせぬりいせんかそのまづらういさういさういさう
 るゆりあひいせんかそのまづらういさういさういさう
 く事あひいせんかそのまづらういさういさういさう
 とせぬりいせんかそのまづらういさういさういさう
 ちのいさういさういさういさういさういさういさう
 でいさういさういさういさういさういさういさう
 とせぬりいせんかそのまづらういさういさういさう
 せんあひいぬよんかその後のいさういさういさういさう

いふゆゑとせぬりてとてあつんと城のありと一
まはるはとせぬりてとてあつんと城のありと一
とてあつんと城のありと一
とてあつんと城のありと一

尾列 旗清子 恩さん せいのしん ちかしの事

私云かりの者 長海都 行舟 旗清子 云高 高に

わりその嫡子と清道とのついでとせぬりてと

徳漁と業ととせぬりてとせぬりてと

一 壯年の江南 京東 大士の 大佛ら ちかしの ありけり

徳さん して 父母 ちかしの 同たりて 一 清一 是 成 ね

恩さん 入来 けり 恩さんの ちかしの ありけり

のた信 徳とつとせぬりてと

大若 法余の ちかしの ありけり

まよとね 一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

一 徳とつとせぬりてと

せやいさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 そりていさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 多し。遠逝の早ゆり。心線世の形とわんぞんぞん
 業者のゆと思へて若新の常の行言なり。置る日
 と羽をんたれよ。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 松乃と移るもも也。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 もまひていさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 子とそらおそのうすわれども。それいさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 まくろた心なり。それいさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一

へくへくといさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 ちひて國よが。その目らう。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 ひと移るへも。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 とれぬらう。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 と思ひまらして。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 山座の藤く。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 かし。他。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 らららざ。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 高野山。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 法界。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一
 東山。いさひ終へて遠逝の云我の尾羽の志也身一

高實の及ん志とてりてうねつらたどもく
その前よりつらかり終ひておつは念仏三昧とて
一終へつらあしきけしきけし道へけるい
こてもゆりそくいへを借産の境事とてうねれ
兄史のくらゆりさの母と見ている妻女のゆも志
のびごうとお見とみている我子も是をいへ成人なる
よあふんを海にひきまわさるゝあつえ
ひ故よ山あつさ栖居しをゆの女障也又うへるも
さうよ侍りまへ師通しうとてあつてまうへん
しそん若くゆれとて押して野山にそのゆりける別
の養生院の女四人の肉とて若く月日成とてり

たりざんも尾刻の父母の我子なりとせうとてり終
さるさう向國障あしつらりてまへあつてそのひ
けまてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
せしらつてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
云賢文客儀とつらひ障かたすの子あつてけしき銀
も金と今つらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
そあつてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
ゆへつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
まへあつてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
あつてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ
ひこりつてつらあつてそのゆれまうくるもあつてさへひ

切のひききりて昔性苦子の珊瑚庵おのひりれ
 若くはありく洋若浄眼乃妙莊嚴まに代せり
 色ひきりりらんは色由りの至孝するをさるる今
 雲霞霞天より海へそはみ川みらんらん子乃を
 て南山の雲より外親の老々山芒の家より隣に
 伴立九回腸くつむけ二掬海と消息くさく送り
 けき先致くのみるま物と切り切り下へとをさる
 してさるるさるるひきりくさるるもさるる母とい
 らひてさるるさるるのつりやう一夜足も一入るも
 ちんとして夫婦後類く引具くしてつらさるるのさ
 勢のつりやうたふ山踏りのさるるで撫説く草津く

懐くまらひりりれて野原の宿をそれの後客の夫婦
 してて魂とてさるるさるる日抄やう海くつりてさる
 山のありさるる天神と云むさるるさるるそれさるる
 してさるるさるるさるるさるる親苦子のの中こ
 そあわれわれさるるも密教の奥奥さるるさるるさる
 ありさるるさるるさるるさるるさるるさるるさる
 してさるるさるるの夜境香のさるるさるるさるるさ
 してさるるさるるの夜境香のさるるさるるさるるさ
 してさるるさるるの夜境香のさるるさるるさるるさ
 してさるるさるるの夜境香のさるるさるるさるるさ

まうらへ今一時がうびかーあひこてあてはあれ
たうらーなりてまどがあつるうらうく覚ゆるゆ今
いし海さんたあーこれまていありてゆ也今日
まのらひ又出のやらわらうらでわひまらるあはは
これがあざらうていへー我とびんてゆりあまが
心とあうて佛と祈るひあひせーんたとい命
の祈そひあまよを我も人もとこれたたのたあ
ーわれのぞも物海電光のそのまあらう
しーしげまうかーあうてそくうらうけらうの人の
書もあひわらうてまてーんたあまてのやうけま
あしむくあも覚えらうけまて人あれどあうらう

物のらうらうのそあつたのふあらるれては縁背の
あれ中くは吉野の川の流るらる二流の別とらう
と守ら父母の解のためー高野山ー雲半間の草庵
張つらうあてはくあーうらな食あれしーあまあ海
くー一用をーしあまよとらうけまてうへーまん
もまあまらあうらあらあははははまーしーしん
みか張るーしひてあてまらーまん一絶し我た
めーあまらあうらあら親のつらうてまひらら
ゆー三流の草庵とも居まらうら老僧とわらう
我ゆらうらうらまら物あまらうら一所の浮雲のま
しー白くあうらあうらまらまらまら年月あれま

